

OBI 後援会・同窓会 NEWS LETTER



〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル2F TEL.03-3296-1005 FAX.03-3296-4641 発行者 藤原 導夫 編集者 有田 貞一

OBIは愛の結びの帯

後援会・同窓会 総務役員 倉内 一寿 [19期生]



私は第19期生で、2012年3月にOBIを卒業しました。ところが、卒業後も、藤原導夫学院長から、学びは一生継続するものだと言われ、その後も毎年、週に1日だけですが、OBIで授業を受けております。仕事は遙か前に卒業しておりますので、人間関係のコミュニケーションも希薄になっている中で、OBIでの学びは単に学びだけにとどまらず、学院生同士の交わりの場としても楽しい有意義なものとなっております。人間は1人では生きていけません。コミュニケーションが必要であるということが良くわかるようになりました。

その意味でも、昨年のOBI後援会・同窓会主催の長崎県上五島列島への研修旅行は楽しいものでした。幹事の芳賀功先生、本当にご苦労様でした。そう言えば、以前行われていた軽井沢恵みシャレーでの夏季セミナーも、学びと交わり両面において本当に有意義であったと思うのですが、また再開できるよう願うものです。

私はOBI後援会・同窓会の総務を担当しており、年に数回の役員会に出席しております。その中で、近況報告の時間があるので、お互いの苦労話などもお聞きし、共に祈り合うこともできております。単なる役員の業務上のことだけでなく、コミュニケーションの場としても、大変有意義な場であると思います。ですから、私は役員として力不足であり、ふさわしくない者であるにもかかわらず、続けさせて頂いております。

エペソ人への手紙4章16節には、「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」とあります。

私たちの信じている神は三位一体の神です。神の実体あるいは本質は一つですが、父、御子、御霊の働きはそれぞれ異なっております。しかし、この三つの働きは見事に調和がとれております。ここに多様性のなかに統一性をみることができます。超教派の聖書学院であるOBIもこれにあてはまるものと思われま

す。私たちに与えられている賜物は、キリストのからだを建て上げるために用いられます。そして、これらの様々な賜物を一つに結び

つけているのは、御霊のみちびきによる愛であることがわかります。

私たちは、愛を持って真理を語り、霊的に成長し、キリストに似たものとして造り変えられていかなければなりません。そのためには、みことばをしっかりと学び、学んだみことばを実際の生活の中に正しく適用していく必要があります。家庭の主婦であろうと会社員であろうと、クリスチャンならすべてに共通していることです。

さて、OBIは超教派の立場にありますので、様々な教派・教団の先生方から指導を受けることができます。それは、大きな恵みであり、大変意義のあることだと思います。今日、日本もグローバル化が進んでおり、海外での仕事も増えており、転勤もあり、一つの職場にずっととどまることは少なくなっているようです。このため、一つの教派・教団で一生経過することは難しくなっており、他の教派・教団について学び、視野を広めておく必要があると思われます。井の中の蛙では困る世の中になっているのです。

ところで、OBIの後援会・同窓会の働きにもいろいろあります。会長をはじめとする役員会は様々なビジョンや計画をたて、みんなでその計画に従って実行していきます。そして、後援会・同窓会のメンバーには、OBIの働きをPRする賜物、祈りをする賜物、献金する賜物など様々な賜物が与えられております。

これらの賜物は、OBIの教育目的である「主と教会に仕える信徒リーダーの育成」のために結集されるべきです。そして、OBI全体がしっかりと御子イエス・キリストと一つに結び合わされ、全員が一致協力することによって大きな働きをしていくことができると確信しております。

私は、かつて故増田誉雄学院長から、愛は結びの帯(コロサイ3:14)であると教えられました。確かにOBIは、オビアイと発音することができ、アイのオビ(愛の帯)です。そのことを象徴しているように、OBIの教師陣も学院生たちも、温かい和やかな雰囲気の中で学びが進められ、愛の帯で結ばれております。願わくはこの「OBIニュース」もその一環として用いられ、愛の帯で結ばれるよう期待してやみません。

第5回OBI研修旅行記

「キリスト教文化の旅」（長崎県上五島教会群の旅）が昨年10月24日～26日にありました。旅行の参加者は20名でした。そのうち2名の方に旅行記を書いていただきました。

上五島の教会群

1期生 杉山 礼子

この旅行に参加申し込みをしたきっかけとなったのは、長い間書棚に放置してあった写真集「日本の教会堂」でした。

23年前家を新築する際、参考資料として購入した本です。久し振りに手にしてみると、今回の旅の訪問先である教会が見られました。

島の入江に並ぶ漁船を見守るように建てられた美しい姿や山あいにはっそりと建てられ、シンプルで愛らしい教会等が印象的で、是非行ってみたいと思いました。

旅程は10月24日～26日(2泊3日)の旅です。

羽田飛行場にAM 8:30分集合、参加者20名。

先ず、搭乗前に結団式です。藤原学院長から3つの目標についておすそめを頂きました。

- ① 過去の歴史の中で信仰に生きた証人たちとの出会い。
- ② 美しい五島の景観の旅への感謝。
- ③ 参加した兄弟姉妹との主にある交流。

一同祈りをもって、長崎空港まで空の旅の始まりです。AM 11:45分着、そこから貸し切りバスで長崎港へ迎え、ジェット船(ペガサス)に乗り、五島の奈良尾港に到着したのは15:15分でした。

貸し切りバスで上五島の2教会・福見教会と浜串教会を訪問し、PM 6:00に民宿「えび屋」に到着、すぐに夕食タイム。

目を見張るような海の幸に大満足の日でした。

2日目は民宿の近くの入江桟橋から海上タクシーに乗り出発。

ガイドして下さる方は敬虔なカトリック信者の森下さん(80歳、男性)です。

若松港へ向かう船は時化で波が高く大揺れです。10分ほどするとキリシタン洞窟が見えました。白い十字架とキリスト像もくっきりと見えたが、近寄ることは出来ませんでした。

明治のキリシタン迫害の際、付近のカトリック信者が弾圧から逃れ、隠れ住んだところだそうです。中には

十字架の広間があるとのこと、断崖の中に隠れ、どんな生活をしていただろうと心が痛み思いました。

若松港に到着後、貸し切りバスで中ノ浦教会→大曾教会→鯛ノ浦教会、昼食後、頭ヶ島天主堂→冷水教会→青砂ヶ浦教会→江袋教会→仲知教会の8教会を訪問しました。

上五島には、点在する29の教会があるそうですが、どの教会も歴史の中で300年にも及ぶキリシタン禁教令による迫害と弾圧、そして生活苦に耐えた信者たちが隠れキリシタンから解放された後、正式なカトリック信者に復帰し、浄財を捧げ、自らの労を惜みず造り上げた教会群だそうです。

そこでは、信仰の自由を得た信者たちが神父とともに祈りの場として教会中心の生活を送っていました。

多くの島民は漁業で生計を立てており、漁を終えて家路に向かう船の中から、小高い丘の上で見守っているような母教会を見て、どれほどの安堵を得たことでしょう

上五島の29の教会は、信仰を守り続けている人々の祈りのあかしです。

静かに佇む教会に入ると、内部は美しい花をモチーフにした彩のステンドグラスアーチの天井、厳かな祭壇、聖像、そして両側壁面にはキリストの受難を14場面に分けた聖画が掲げられています。この中でロザリオの祈り、主の祈り、使徒信条が唱えられ、私たちも参加できました。(2教会で)

“魂の教会”として生き続けている五島の信者の信仰・希望・愛を感じる旅でした。

“今は恵みの時、救いの日”であることを覚え、感謝し、自身の信仰を省みる時でもあったと思います。

すべてを主に感謝しつつ。 主に在りて。



念願の上五島教会群を訪ねて

中島 和子

好天に恵まれた10月下旬、OBI後援会・同窓会主催の長崎上五島旅行に参加させていただいた。

実は数年前の下五島旅行の時から、何時の日か上五島も訪ねてみたいとしきりに願っていた。長崎県の西の沖合にあり、複雑で変化に富んだ地形のこの小さな島に多くの教会が点在し、信仰を守り抜いた人々の思いと歴史が脈々と伝えられていることや、海に囲まれ鮮度抜群の魚介類の美味しかったことなどが忘れられなかったためである。

好天に恵まれ長崎へと向かう飛行機内から見た富士の山、「頭を雲の上に出し〜」と童謡にあるように、雲海の彼方から頭を出して力強く堂々としていたその姿に、さすが世界遺産と納得。また、長崎港からのジェットフォイルは、船酔いする間もなく速くて快適で海上新幹線かと思ほで、あっという間に奈良尾港に着いた。

今回の旅は、29ある上五島教会群のうちの11教会と海上からのキリシタン洞窟・ハリノメンド巡りである。訪れた教会はいずれもカトリック教会であり、すでに国の重要文化財に指定されている2つの教会は世界遺産登録に向け、また、その他の教会も同様に様々な取り組みがなされていた。ほとんどの教会が海を見下ろす高台に建てられており、十字架を高く掲げたその姿は大自然と融合しつつも際立って見えた。敷地内に一步入ると、そこは掃き清められ塵一つ見当たらず整然とされていた。庭内を一回りしても同様に、物が置かれておらずきれいに片づけられている様子が襟をただすような感動を覚えた。さらに驚いたことには、会堂の中の整理整頓が徹底していたことであった。聖書や聖歌、図書、教会関係書類等などが整然と並べられていた。見渡す全ての物が整えられ収められており、これは見学した他の教会でも同様だった。教会を自分の体として大切に、手入しているのだと実感した。また、会堂は鍵がかかっておらず、何時でも祈りの場として開放されていた。

ちょうど夕拝中の教会に出合い、少しの間、共に守らせて頂いた。神父は巡回等で不在、小学生と大人が聖書講読しながらロザリオを握りしめつつ声を合わせ、祈り賛美をしていた。弾圧で教会もなく神父もいない中、潜伏しながらカクレキリシタンとして守り続けてきた信仰が今に

至るまで、真摯に受け継がれていると感じた。

上五島の教会では内部の装飾やステンドグラス等に椿のような花を意匠としているものが多いと聞いたが、どの教会も壁面に粋にかたどられた椿や茨(バラ)等の花が描かれていたのが印象的だった。

2日目に乗った海上タクシーは、海が時化て波が大きくうねり、さながらジェットコースターに乗っているようだった。船に弱い私は、大きな揺れにあわや転覆かと不安と恐怖におそわれ、今後二度と乗るまいと決心した。

海に突き出た断崖の岩場にそれはあった。キリシタン洞窟・ハリノメンドである。これは明治のキリシタン迫害の際、数名のキリシタンが弾圧から逃れるために隠れ住んだ場所である。後に純白の十字架とキリスト像が建てられ、今も彼らを偲んで毎年11月には地区の信徒が訪れて祈りを捧げているという。



キリシタン洞窟



ハリノメンド

彼らの信仰をなんと表現したら言い表せられるだろうか。厳しい弾圧に耐え、辺境の地での貧しい生活の中から浄財を捧げ、また、自らも石や煉瓦を運んで建築に携った教会堂は威容にして美しく、多くの人を魅了してやまない。これこそ信仰を守り続けてきた人々の祈りの証しであり、彼らこそキリストの証人なのだと実感した。

江袋教会でお会いした方々の、神への信頼に満ちた穏やかな表情が忘れられない。信仰が呼吸するかのように生活に根付いていて、信仰に始まり信仰に終わる日々我真摯なさまを見ることが出来た。少しばかりの時化に大騒ぎして

いる自分がなんと信仰の薄いものかと反省させられた。

出発前の空港で藤原学院長が、旅の目的は①キリストの証人に会う、②当地の景観を楽しむ、③参加者との出会いと交流に感謝すると話された。それに加えて、美味しい魚を食べたいという私の目的は、自然豊かな海からの新鮮な魚介類が次から次へと出てきて大満足であった。かつての網元の隆盛を偲ばせる宿の大広間が、食後の余韻と旅の疲れを癒してくれた。

キリストの証人を心で見えて確かに感じ、土地の人々との楽しい出会いもあり、共に旅行した方々との温かい交流にも感謝した。この旅を計画し労を取って下さった担当者にも深くお礼申しあげたい。

拝観ハンドブックには、教会は祈りの場であり観光施設ではないと書かれていたが、確かに上五島の教会群は祈り場であると体感した。上五島の皆様に感謝。

(中島和子姉は13期生中島總一郎兄の奥様です)



証

教会音楽専攻 石井 江理子

私は教会で奏楽と聖歌隊の奉仕をしています。

7年前、私は信徒奉仕者として礼拝の音楽について学びたいと思い、OBIで、夜、教会音楽の学びができることを知って、すぐ応募をしました。入学を許され3年間は「総合コース」(聖歌隊指揮法、教会音楽史、声楽、オルガン、礼拝、等)を受講しました。ピアノは習ったことはあるけれど、音楽を専門に学んだことのない私に、先生お一人おひとりが本当に優しく、的確にご指導くださいました。私は課題一つひとつに、どうにかついていくのが精一杯でした。

私にとって一番想定外だったのは、「オルガン」でした。当初私はピアノでレッスンを受けていましたが、何だか先生や他の生徒の皆さんがオルガンを弾く姿を見て、「やってみようかな」とつい思ってしまったのです。オルガン指導の斉藤先生は、魅力的な、色々な曲を教えてくださいました。先のことは分からないけど、とにかく、一曲、一曲と、練習をしました。

OBIの特別講義の時(教会音楽デーなど)には、特別講師の先生が教えてくださいます。パイプオルガンの裏側にまわって中を覗いてみたり、試しに弾いてみたり、公開レッスンで冷や汗ながらに弾いたりしました。

総合コースが終了してからは、オルガンのレッスンコースを専攻しています。相変わらず一曲、一曲、格闘しています。

講師の先生の皆さんの演奏を聴く機会もあります。先生の賜物を用いて神様に使えられているお姿に、感動し、尊敬してしまいます。

共に学ぶ皆さんとは、教会での奏楽などの情報交換や励ましあうことができます。

最近分かったことは、私の場合、オルガン1曲につき、だいたい6ヶ月練習すると、礼拝の前奏曲などで捧げることができる、ということです。練習してきた曲のなかで、宗教改革記念や、受難、復活、クリスマスなど、この時にはこの曲を、と選曲することがだんだんできるようになってきました。また、急なご葬儀の時も、焦らずにご遺族の状況などを考えながら、曲を準備することができるようになってきました。

オルガンの斉藤先生は、私のレベルに合わせて、教会の礼拝など奏楽者として困らないように最初から、一曲一曲選んで教えてくださっていたのだな、今更ながらに気づいて、感謝の気持ちでいっぱいです。

私にとって「教会の奉仕のために学ぶ」というこのOBIの時間は、特別な時で、日常から少し離れた、何か宝物のようです。多くの方々に支えられて、学ぶことができますことを感謝します。



2016年度会計報告

OBI後援会・同窓会 2016年度決算報告および2017年度予算(案)

単位:円

収入	項目	2015年度予算	2015年度実績	2016年度予算	2016年度実績	2017年予算案
	維持献金	750,000	796,000	1,200,000	969,000	1,080,000
	同窓会費	170,000	204,000	200,000	165,000	170,000
	任意献金	400,000	112,000	100,000	211,000	210,000
	総会会費	40,000	40,500	40,000	25,500	25,000
	雑収入	0	2,546	0	77	0
	小計	136,000	1,155,046	1,540,000	1,370,577	1,485,000
	繰越金	516,954	516,954	285,186	285,186	114,667
	合計	1,876,954	1,672,000	1,825,186	1,655,763	1,599,667

- *維持献金は、正会員(卒業生)、賛助会員(個人または団体)による献金(毎月自動引落とし)
- *同窓会費は、正会員(卒業生)による同窓会費(3,000円/人・年)
- *任意献金は、正会員(卒業生)、賛助会員(個人または団体)による任意献金
- *総会会費は、総会の参加費
- *雑収入は、預金の利息等

支出	項目	2015年度予算	2015年度実績	2016年度予算	2016年度実績	2017年予算案
	事務・消耗品費	20,000	15,359	5,000	1,138	10,000
	印刷費	200,000	73,492	130,000	135,000	70,000
	通信費	70,000	50,668	50,000	39,192	60,000
	振替手数料				20,044	25,000
	後援会・同窓会活動費	200,000	161,781	150,000	125,722	89,000
	OBI協力献金	1,100,000	1,000,000	1,200,000	1,200,000	1,250,000
	旧後援会諸経費	0	65,514	0	0	0
	雑費	20,000	20,000	5,000	20,000	20,000
	小計	1,610,000	1,386,814	1,540,000	1,541,096	1,524,000
	繰越金	266,954	285,186	285,186	114,667	75,667
	合計	1,876,954	1,672,000	1,825,186	1,655,763	1,599,667

- *事務・消耗品費は、物品の購入費、コピー代等
- *印刷費は、印刷会社に支払うニュースレター・はがきの印刷代
- *通信費は、郵便局に支払う郵便・はがき代
- *後援会・同窓会活動費は、総会や役員会等における活動費等

	3月31日現在
ゆうちょ・普通	42,089
ゆうちょ・振替	31,300
手元現金	41,278
計	114,667

献金者名 正会員(敬称略)

阿部幸平 有田貞一 有田美榮子 飯島多稔夫 猪狩友行 石井由紀 石塚幸子 糸満ミユキ
 梅澤近子 江藤博久 奥津晃 奥津榮子 鬼京由紀子 小野沢恵子 尾原光彦 加茂康一
 国東恵子 國松裕子 窪井節子 窪田淳子 倉内一寿 倉沢薫代 小林直子 小林則義 駒井卓
 佐藤敬 沙澤美紀 島田裕子 杉山礼子 須子都 鈴木ますみ 鈴木芳宣 高崎公子 田中君恵
 田中恵子 田畑勝敏 戸川借生 永井みよ子 永澤良子 中島總一郎 中城昭治 中平悦子
 中村良子 浪井弘子 西口修八 芳賀功 蓮池裕子 日名富子 平松庸一 福井ちよ 藤原導夫
 堀口容子 牧野三恵 増尾善文 町田恵子 三浦喜代子 三友庸子 宮内芳枝 森本麗 山口松子
 吉村瑞美子 依田和子 米田由起子 脇坂勇 木下順子
 賛助会員(敬称略)
 福井誠 飯島勲 植木朋子 金本悟 松本逸子 坂本二郎 古淵キリスト教会 神田正吾
 経堂めぐみ教会 武蔵村山バプティスト教会 風川聖書教会東京集会 鎌倉海岸キリスト教会
 北松戸福音教会 高橋和子 吉野俊子

会計報告 皆様のご協力を感謝いたします。

監査報告 上記の結果、会計監査を行いました。記載内容は間違いなく正しく示されていることを認めます。
 2017年4月11日 会計監査

芳賀 功

お知らせ

■ 2016年11月7日(月)午後2時よりOCC8Fチャペルに於いて世良田湧侍先生を偲ぶ会が持たれました。

堀 肇副学院長の司式により、植木朋子先生の独唱(伴奏 内藤真奈先生)、藤原導夫学院長の式辞の後、三浦喜代子元後援会会長、有田貞一後援会・同窓会会長、戸川偕生同副会長、福井誠教務主任がそれぞれの立場から思い出を語られました。世良田先生のご遺族の上に主のお恵みが豊かにありますようお願いいたします。

■ 2017年3月4日(土)第24回お茶の水聖書学院卒業式が持たれました。

卒業生は、聖書科 阿久津千枝子姉、奥村輝夫兄、末吉寿子姉^{ひまこ}の3名です。
主の働き人としてこれからの歩みが祝されますように。

■ 今号に後援会・同窓会の2016年度の会計報告を掲載いたしました。支出項目中、印刷費(ニュースレター印刷費)の比率が高いことが分かります。

2月の役員会において、OBIへの献金を少しでも増やすためにニュースレターの発行を年2回から年1回としたらどうかとの意見が出され、審議の結果、発行を1回とし発行月は4月とすることにいたしました。

■ 皆様のご協力により賛助会員が少しずつですが増加しております。

また、既に賛助会員の方で献金口数を複数にして下さる方もおられます。
賛助会員はOBI卒業の如何を問いません。

OBIを応援してくださる方どなたでも一口1,000円/月の献金にご協力願えれば幸いです。よろしく願いいたします。
問い合わせはOBI事務局(TEL. 03-3296-1005)までお願いいたします。

編集後記

新年度に合わせてニュースレターを発行出来ましたこと感謝いたします。

3月4日に第24回お茶の水聖書学院の卒業式が行われました。

3名の方が卒業され、OBI後援会・同窓会の正会員が3名増員されたことになります。

毎年少しずつでもニュースレターの発送先が増えて行くことは励みになります。

今号では、巻頭言を後援会・同窓会の総務担当の倉内兄に書いていただきました。本会主催の研修旅行が昨年10月に行われましたが、参加された方の中から2名の方に旅行記を書いていただきました。お二人に書いていただいたことにより、旅行の様子が良く分かり臨場感ある旅行記になりました。また、証しとして教会音楽専攻の石井江里子姉に寄稿していただきました。教会音楽を学ぶ恵みが伝わってまいります。

これまで7月と2月にニュースレターを発行し、発送時に振り込み用紙を同封していたため、年会費を2回送金される方がおられました。

そのようなことがないように今号から新年度に入ってニュースレターを発行することにいたしました。更に、経費節減しOBIへの献金を増額するため、年2回発行していましたがニュースレターを年1回とすることにいたします。

ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

新年度が皆様にとって主のお恵みに満ちた一年となりますようお祈りいたします。

(戸川)